



人口減少社会と

地方都市の活力再生

100

株式会社さくら都市総合研究所

主 席 員 清水 秀幸
研究員



17 都市の景観を
考える

誰しも文化・芸術の香りに満ちた中で心豊かに暮らし、お互いそれを共有し、来訪者達ともその豊かさを共有したいと願うものだ。

これからの時代、とりわけ地方都市にあっては、人口も経済も縮むことが予見される。

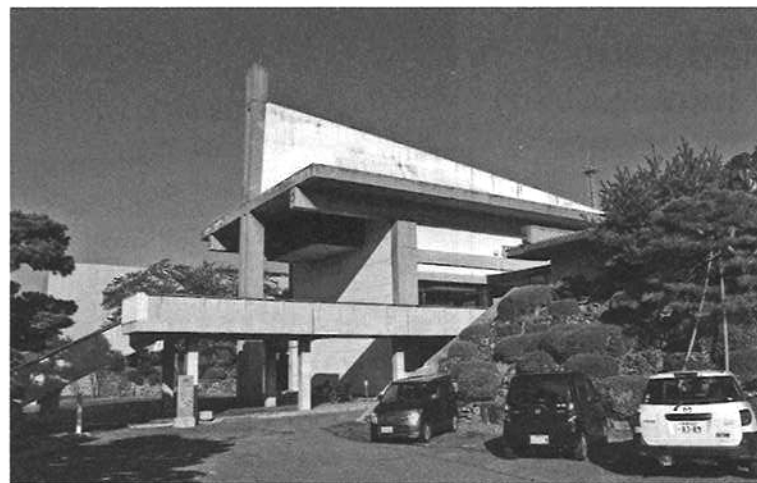
それだけに、そこに暮らす人々の参加により、伝承文化・芸術が維持され、より創造性の高い文化・芸術が発信され、自らもその享受を体感することで、質感ある豊かな社会を創りあげることが、大変重要になるはずだ。

長野県でも、2014年の知事選で阿部守一知事が公約に掲げた

「信州文化の振興・創造」をもとに、15年度を「文化振興元年」と位置づけ、芸術・文化活動の推進費として年度ごとの予算増額を明言し、松本市で盛大に催されるセイジ・オザワフェスティバルへの大幅な助成支援、また県信濃美術館の全面改築計画の具体化等、今までにない積極的な予算の拡大に踏み出した。

また、長野市も09年に条例化された「文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例」を、15年春に一部改正し、文化力あふれる地域社会の形成について、スピード感を増した取り組みにかじを切った。

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか6委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



半世紀余りの歴史を閉じる現信濃美術館

（続く）